

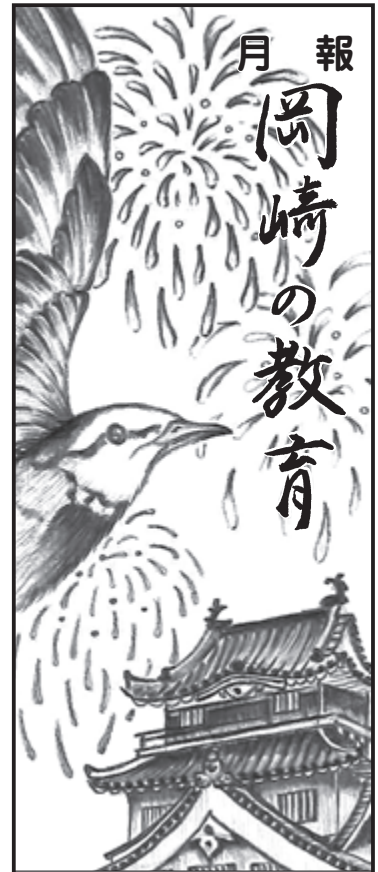
# はて「米沢牛」?

岡崎教師塾「允文館」塾長  
(前岡崎市教育委員会教育長)

高橋 淳 氏



教育随想



令和7年1月1日

1月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎教師塾「允文館」 塾長 高橋 淳 氏	
この人に聞く……………	2
「ゆび書き文字」作家 堀田 たけいち 氏	
羅 針 盤……………	2
生活総合指導員 酒井 智之	
ふれあい……………	3
常磐中学校 教諭 勝治 貴志	
特 集……………	4
次世代へ伝えたい 岡崎市の下水道のちから ～下水道事業100周年からその先へ～	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
視聴覚機器を取り入れた授業 (昭和61年)	
この本を……………	8

「米沢牛」と認定されるには、厳しい条件があるそう。私は米沢生まれ、米沢育ち。しかし、近くで牛の飼育を見て育っていない。どこで飼っているのだろうと、不思議に思った。だいたい「米沢って、どこ?」と知っている人が多いことだろう。

簡単に言うと、山形県の南部の人口十万人弱の市。伊達政宗が誕生したところ。だが、雪国では天下が目指せないと仙台に移った。その後、上杉家の家老直江兼統が居住した。そして、一躍米沢を有名にしたのが、アメリカ大統領ジョン・F・ケネディの言葉だった。大統領就任の時、日本人記者の「日本で最も尊敬する政治家は誰か。」という質問に対して「上杉鷹山」を挙げたことである。この米沢藩九代藩主上杉鷹山は、藩政改革を行い、日本一貧しい藩の財政を立て直した名君だ。だが、

日本人記者たちは、誰のことかわからず、慌てふためいたという。私が子供の頃、母が「米沢の殿様は、一汁一菜で過ごされていたのだから」と、贅沢を戒めた。時代錯誤も甚だしいと思うのだが、米沢藩の教育の賜物だろう。教育とは、すぐく力があると思った。鷹山は、藩校の「興讓館」をつくり、領民全てに教育の門戸を広げた。特に、子供たちの教育に力を注いだ。子供たちの育成こそが国を繁栄させ、豊かにすると考えたからである。

教育は、時代を変え、世の中を動かす力がある。ただ、一人の教師にそんな力は到底ない。けれども、教師は子供たちの運命を変え、進むべき道を照らすことができる。教師の言葉、行動には人を動かす力があると信じている。だからこそ、生半かな気持ちで教壇に立つてはならぬ



い。教師には、日々プロ意識をもって、子供たちに影響を与えうる存在になってほしい。

「米沢牛」と呼ばれるには大変な条件がある。だが、最も大切なことは、牛への真心だという。牛を育てる人たちは、魂をこめて育てている。

(たかはし じゅん)



文字の面白さ、楽しさを探求する

「ゆび書き文字」作家

堀田 たけいち 氏

指の腹、側面、ときには爪を巧みに使い、丸みのある温かな文字を生み出す。ゆび書き文字を始めて六十年。今日も堀田さんは、文字を書くことの楽しさや面白さを原動力に、指を走らせる。

「ゆび書き文字を書くことになったきっかけを教えてください」

父が書道教室を営んでおり、もともと、書に親しむ環境にありました。周りで文字を書いている人たちを見て、ふと、なぜ筆で文字を書かなければいけないのかと疑問に思うようになりまし。それから、遊び感覚で、筆以外の割りばしや新聞紙で文字を書くようになり、行き着いた先が指でした。文字は、どんな道具で書いても、必ず手を使います。それなら指で文字を書いてよいのでは

と思ったことがきっかけです。最初は、書き順は正しくなくてはいけな、墨継ぎをしてはいけななど、書写の作法にとらわれ、思い通りの文字は書けませんでした。そこで、もつと自由に書くことができな、かと思、紙を指で書きやすいものに変え、書き順にもとらわれずに書いてみると、丸みを帯びた温かみのある文字を書くことができました。発想を転換し、試行錯誤しながら、今のスタイルになっていきました。

「ゆび書き文字の魅力は何ですか」

私はゆび書き文字は、書写とは違うと考えています。ゆび書き文字は、アートのような一面が強くあります。文字を重ねて書いたり、墨だまりの位置を一画一画ばらばらにしたりします。また、指の使い方によつては手元が見えないので、自分が思ってもみなかった文字の形になることもあります。ゆび書き文字は自由で枠にとらわれないものだと思います。そんな自由で遊び心のあるものだからこそ、作品を見てくださった方から、「楽しい文字だね」と言ってもらうことがあります。見ていて、面白い、楽しいと思えることがゆび書き文字の魅力だと思っています。

さらに、作品展に来てくださった方から、「温かみのある文字だね」という言葉をいただくことがあります。これこそが、ゆび書き文字の最大の

魅力です。筆ではなく、指を使うことで、文字の書き始めに丸みが出ます。その丸みこそが文字の温かみにつながるのだと思います。

「今後の願いを教えてください」

今は、皆さんに文字を身近に感じてもらえる活動をしたいと考えています。文字というものは、意思を伝えるための道具として、必要不可欠です。上手、下手は関係ありません。小難しく考えず、先人の残した言葉、共感できる言葉を、絵と同じ感覚で書き、飾って楽しんでほしいと思います。私自身も、童謡や唱歌などの伝えたい題材を、アートと同じような感覚で書いています。

文字を身近に感じてもらうために、額に入れて飾る以外に、日常に取り込むことができる方法や活動を考えたいです。例えば、身に着ける物に文字を入れることで、文字を日常生活の中に取り込むことができます。実際に、作品の一部をバックやTシャツに印刷して、商品化しています。文字の面白さや楽しさが皆さんに伝わればいいなと思います。



氏名 ぼった たけいち  
生年月日 昭和十五年一月二日  
住所 岡崎市 千万町



「問い続ける子供」を育むために

生活総合指導員 酒井 智之

総合的な学習の時間では、子供が問題解決学習に取り組む中で、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの探究的な学習の過程を繰り返して、自己の生き方を問い続ける姿を目指している。

A 教諭は小学校五年生で、「憩い」「交流」「レクリエーション」の三つの願いが叶えられる公園づくりを目指して授業を構想した。教師支援は、大きく分けて三つである。

一つ目は、「課題の設定」の場面で、地域住民と意見を共有したこと。学区の様子を調べた後、地域住民の声を聴く場を設け、「学区に遊び場がない」という思いを重ねたことで、子供の問題意識は切実感へと高まった。二つ目は、「情報の収集」の場面で、子供に追究の方法を委ねたこと。「理想の遊び場をつくりたい」という学級の共通目標を胸に、市役所公園緑



## 「苦手」と向き合う

常磐中学校

教諭 勝治 貴志

「自分は、不器用だから。」

Aさんは、自分に多くの苦手があることを自覚していて、うまくできない姿を人に見られることを避けていた。しかし、苦手があることも自分の一面として認め、向き合うことがAさんの成長につながると思った。

合唱コンクールが近づいてきた。音楽科の授業では、Aさんがパートリーダーに決まった。人前に立つて話すことが苦手なAさんが、なぜ引き受けたのか。不思議に思い、声をかけた。すると、Aさんは学級の仲間から推され、強く断ることもできず、「やる」と言ったのだ。彼は、彼が苦手と向き合い、乗り越えられるよう寄り添うことを決めた。練習初日、パート練習の様子を見に行くと、Aさんの表情はやはり暗かった。帰りの会で「明日も頑張りましょう」と小さな声で言ったAさ

んが気にかかり、声をかけた。

「音楽は得意ではないから、何を言っているかわかんない。」

と、うつむき顔で言うAさんに、みんなに話す内容を帰りの会の前に一緒に考えようと約束した。

ある日の帰りの会で、一緒に考えておいた課題を話すAさんの表情が曇って見えた。声をかけると、

「自分たちでどこよりも早く始める」と決めたのに、歌い始めが遅くなっ

てしまった。気づいていたのに、声をかけられなかった。」

と悔しそうに話す様子から、動き出せない自分自身へのもどかしさと、Aさんの変化が垣間見えた。

「反省は次に生かせばいいんだよ。明日は、いちばんに動けるようにみんなに声をかけてみよう。」

と励ますと、Aさんは「頑張ってみます」と笑顔を見せた。

翌日、練習前に落ち着かない様子のAさんの姿があった。どうするかと見守っていると、意を決したように顔を上げ、

「アルト、二階のホールでやるからすぐに行くよ。」

と、大きな声で指示を出した。パートの仲間はAさんの声に驚きつつ、急いで移動を始めた。チャイムと同時に歌声がホールから響き始めた。

私は帰りの会で、Aさんの行動を称賛した。Aさんは、はにかんでい

たが、私の言葉に頷く仲間の様子を見て、自信を得たようだった。

その日以降、Aさんが以前より自主的に行動するようになった。練習方法や思いの伝え方について、生活ノートを通して相談してきたり、練習で感じたことを、パートの仲間へ自分なりの言葉で一生懸命伝えたりするようになった。パートの仲間も、そんなAさんの話に真剣に耳を傾けた。苦手なことを避けていたAさんの姿は、もうなかった。

合唱コンクール後の教室で、

「自分にはできないと思っていただけ、みんなの支えのおかげで逃げずにやりきることができたし、頑張ったよ、仲間の前で語るAさんの横顔は、晴れやかで凛々しく見えた。」



地課へ公園の設置を提案した。建設費用、建設条件等を基に受け入れられることはなかった。しかし、地域住民と思いを共有した子供は、簡単にはあきらめない。一日だけでも地域住民とともに楽しみたいと、校庭を公園として開放する「学校公園化計画」を立案し始めた。

三つ目は「整理・分析」の場面で、一人一人を大切にすること。教室には、学習のつながりを捉えることが難しい子供や、言語理解に苦しむ外国籍の子供がいる。そのため、教室には、学習の流れを板書写真とともに掲示し、常に確認できるような支援や、外国籍の子供に、カードを用いて自己の考えを表現できるように配慮があった。地域の誰もが満足する公園にしようという意見を交わす姿は、一人一人を大切にするというA教諭の思いが浸透している証である。

子供が立案した「学校公園化計画」は、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの学習過程を繰り返しながら、実現に向けて進み続ける。「問い続ける子供」を育むには、探究的な学習の過程が重要である。そして、子供の情熱を引き出し、誰一人取り残さない教師支援が欠かせない。

# 次世代へ伝えたい 岡崎市の下水道のちから

## ～下水道事業 100周年からその先へ～



▲第11回マンホールサミット企画「描こう！びせいぶつランド」

令和五年に岡崎市の下水道事業は、開業から一〇〇周年の節目を迎えた。岡崎市は、安心・安全・安定した下水道事業を、これからも持続させるため、市民に下水道への関心を集める取組に、力を入れている。

昨年十一月開催の「第十一回マンホールサミット」では、従来のデザインマンホール展示にとどまらず、多くの市民の関心をひくよう、体験的な活動ブースを籠田公園から桜城橋までの一帯に展開した。地元の大学と提携した企画「描こう！びせいぶつランド」では、下水処理で活躍する微生物を想像して描くことで、子供たちが楽しみながら参加し、下水道の仕組みを身近に感じられるようにした。さらに、地元の高校生が企画や運営をする、小学生向けの下水道に関するクイズ大会を開催した。また、地域の農家は、下水汚泥から抽出した肥料を使って育てられた農作物を調理・販売するブース「Bistro 下水道」の出展などを行った。様々な角度から「下水道のちから」や価値を市民に認識させることができた取組が評価され、令和六年度国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）を受賞した。

他にも「上下水道親子サポーター制度」（おかざきすいっと隊）では、親子で施設見学や水質検査体験、自由研究サポートなど、様々な体験活動を行っている。これらの活動を通じて、下水道について学習し、普段の生活を見直す場を設けている。

このようなイベントや企画を通して、岡崎市の衛生的な水を守ってきた「下水道のちから」に、市民の一員である子供たちが気づき、安心・安全な水を次の一〇〇年へとつなげていくことを願っている。



▲矢作川浄化センターの見学



▲上下水道局職員による出前授業（六名小）

# —第 11 回マンホールサミット—



▲働く顔のフラッグ（桜城橋）

下水道事業に従事する人の存在を身近に感じてもらうため、働く人の表情が伝わる写真の展示をした。



▲小中学生がデザインしたマンホール蓋

全国 100 を超える自治体から多種多様なマンホール蓋を集結させた。



▲デザインマンホール蓋の展示

アート × 下水道



▲「描こう！びせいぶつランド」



▲Bistro 下水道

鉄板の代わりにマンホール蓋の上で調理された料理がふるまわれた。

地域 × 下水道



▲第 1 回おかざき下水道クイズ大会（市内小学生参加）



岡崎市上下水道局  
経営管理課  
村田 綾花さん

「上下水道局職員の違い」  
多くの市民の皆さんに「下水道のちから」を知っていただきたいです。今はその思いでより多くの人たちに伝わるように、様々な広報活動に取り組んでいます。  
現在は社会インフラが「当たり前」になっています。衛生的な水に必要不可欠な「目に見えない下水道」の存在が、これからの社会を担う子供たちの心の中に、少しでも残る取組を続けていきたいです。今後も学校の先生方と連携して下水道の大切さを広めていきたいと考えています。下水道を通して環境について楽しく学べる出前授業を開設しているので、ぜひ利用していただけたらと思います。

「おかざきすいと隊」では、下水道に関する施設を学んで、間近でその働きを知ることができる。



●第68回岡崎市小中学校書き初め展

時 令和七年一月十八日(土)  
十時から十七時三十分、  
十九日(日)  
十時から十五時三十分

所 岡崎市美術館(岡崎市明大寺町茶園11-3)

※美術館以外に利用できる  
駐車場

- ・岡崎市立竜海中学校
- ・愛知県立岡崎盲学校
- ・サンフイレル岡崎

内容 各小中学校の各学級二点の代表(毛筆)・各学年一点の代表(硬筆)に選ばれた作品約二千百点を展示している。



▲第67回岡崎市小中学校書き初め展の様子

●交通安全第76回岡崎市民駅伝競技大会

※中学校男子・女子の部についてのみお知らせします。

時 令和七年一月十九日(日)

午前九時三十分スタート

所 岡崎中央総合公園モニュメント前をスタートし、市内を回る。ゴールは、男女共に、矢作川右岸渡橋河川緑地運動場前である。

参加資格

チームは、市内の同一中学校に在学する者で編成する。男子は、一校三チーム以内、女

子は一校二チーム以内で学校長が認めたチームに限る。一チームは五名で、補欠は五名以内とする。



▲第75回岡崎市民駅伝競技大会の様子

●そよかぜ相談の状況

年長児の就学相談が年々増え、現在では年間二百件を越える。主な相談内容は、「通常の学級(通常級)か特別支援学級(支援級)か、あるいは支援級か特別支援学校(支援学校)か、わが子に合う就学先はどこか」というものである。本人の様子を観察しなが

ら、保護者の考えや思いを丁寧に聞いた上で、通常級、支援級、支援学校それぞれの特徴や教育内容の違い、また支援の様子等について具体的に説明し、本人により合った教育環境を保護者に適切に選んでもらえるように努めている。その中で、通常級と支援級で迷う保護者には、次のようなことを伝えるようにしている。

- ・小学校では、幼・保のような加配や副担制はない。
- ・支援級に在籍していると、交流学习として通常級で授業を受けることができる。
- ・知的な遅れがなければ通常級と同じ速さで学習も進めることも可能であり、中学校なら高校や専修学校を受験することもできる。
- ・入学後も、学年の変わり目等で通常級・支援級間の転級、あるいは小学校・支援学校間の転学ができる。
- ・就学相談の他には、小中学生とその保護者を対象とした長期欠席、発達障がい、特別

●叙勲・各種表彰

長年の教育活動における功績が認められ、次の皆様が叙勲・表彰を受けられました。

- 瑞宝双光章 近藤 公一
- 瑞宝双光章 牧 太刀彌
- 瑞宝双光章 飯見 紀男
- 瑞宝双光章 林 和泉
- 瑞宝双光章 後藤 孝範
- 瑞宝双光章 豊嶋 典明
- 瑞宝双光章 鈴木 栄二
- 県教育表彰 岡田 豊

●第三回あいち教育賞

・佳作

生平小学校 杉本 智恵  
「身近な環境に主体的に関わり、よりよい環境について考え、行動できる子供の育成」  
3年 総合的な学習の時間  
「セキレイのすむ町 すてきな生平」の実践を通して」

表彰

◆第73回愛知県中学校駅伝大会

○男子の部

3位 六ツ美北中

○区間賞 男子

2区 六ツ美北中 吉本 健心

4区 南中 尾田 祥太

○区間賞 女子

4区 新香山中 藤井 実咲

◆令和6年度愛知県中学校ソフトテニス新人大会

2位 矢作中

上競技大会

◆第6回愛知県中学生新人陸上競技大会

○中学生の部 女子100m

2位 新香山中 原 芽咲

◆第41回愛知県中学生体重別柔道大会

○中学生の部

男子個人 60kg級

2位 矢作北中 岩月 颯真

女子個人 57kg級

3位 矢作中 森山 咲笑

◆神無月杯

○アーチェリー 男子

リカーブ18M部門

1位 東海中 中田 治希

○アーチェリー 女子

リカーブ12M部門

3位 東海中 内山 紗杏

◆第13回日本学校合奏コンクール2024全国大会

グランドコンテスト

○中学校の部

優秀賞

城北中

◆第13回日本学校合奏コンクール2024全国大会

ソロ&アンサンブルコンテスト

○ソロ部門 中学校の部

優秀賞(トランペット)

翔南中 藤林 莉愛

優秀賞(ファゴット)

翔南中 山崎 梨桜

○アンサンブル部門

中学校の部

優秀賞(ヴィブラフォン・マリンバ二重奏)

東海中

安藤 和子・岡田 紗葵

優秀賞(金管八重奏)

翔南中

森田 茉優・柴田 凪

栗飯原紗季・服部 紗奈

橋田 一輝・小田 愛実

藤林 莉愛・畔柳 帆望

優秀賞(打楽器四重奏)

翔南中

浅井 春乃・内山 芽衣

中牧 婆耶・佐野 絢菜

◆第58回全国野生生物保護活動発表大会

環境大臣賞

東海中

◆租税教育推進校等表彰

名古屋国税局長表彰

井田小

◆こども音楽コンクール 第59回中部日本決勝大会

○小学校 合唱部門

最優秀賞 第1位 三島小

優秀賞 第2位 六名小

○中学校 合奏第一部門

優秀賞 第2位 福岡中

○中学校 合唱部門

優良賞

竜海中

◆フラワー・ブラボー・コンクール

愛知県大賞

形埜小

優良賞

常磐小

○学校花壇設計図コンクール

愛知県知事賞

常磐小

愛知県教育委員会賞

形埜小

○花と私の作文コンクール

愛知県知事賞

形埜小

鈴木 遼

○花と私の作文コンクール

中日新聞社賞

形埜小

川田 莉椿

○花壇を描いた写生コンクール

愛知県知事賞

形埜小

神谷 奈津

○花壇を描いた写生コンクール

愛知県教育委員会賞

形埜小

鈴木 結晴

◆愛知県防火作品展

○5年ポスターの部

愛知県知事賞(特選)

小豆坂小

増永 奨

○6年習字の部

愛知県消防協会会長賞(準特選)

六名小

井川晃士朗



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ  
ツ  
ト  
  
東  
海  
中  
鈴  
木  
志  
麻

# 視聴覚機器を取り入れた授業 (昭和61年)

写真提供：六ツ美中学校



写真は、保健体育科の授業の様子である。個々の動きの改善点を見つけるために、ビデオカメラで撮影した映像を生徒たちがテレビ画面を見て確認している。

六ツ美中学校は、昭和五十九年に教育機器活用による形成的評価の研究に取り組んだ。到達目標への認知面、技能面の達成度を的確に把握できる評価のあり方や評価問題の作成について実践を重ねた。生徒は、自己・相互評価する力を高め、それを教師が評価に生かした。

現在、各校で子供たちが一人一タブレットを活用して、課題の解決に向けて様々な方法で追究できるようになった。個別最適化で多様な学びが展開されている。

年が明け、新しい一年が始まった。子供たちは、家族とどのような話に花を咲かせたのだろうか。

今年には「復活と再生、新しいことが始まる年、実を結ぶ年」という意味があるそうだ。子供たちの新たなチャレンジを応援するとともに、これまでの頑張りが実るように支援していきたい。

## とホ

## 睦目ツ



▲心新たに「書き初め会」(甲山中)

発端は、ささいな疑問だった。筆でなくてもよいのではという気づきから、固定観念を覆して、ゆび書き文字で先人の言葉を世に届ける堀田氏。六十年間も続けられた原動力は、文字を書く楽しさや面白さ、そして文字を身近なものにしたいの思いだ。好奇心をもち続けることの大切さを教えていただいた。

「常々どうしたら未来を担う子供たちに、下水道の重要性を伝えられるか考えています。」上下水道局・成瀬さんの言葉が印象深い。子供たちに響く企画にしよう、こだわり抜いた結果、幅広い世代や分野の人々を巻き込んだ。次の一〇〇年へ、なくてはならない水を、これからも守り続ける。



\*原爆裁判 毎日ワンス

山我 浩 ¥1,400

### 心に残った一文

戦争を全く廃止するが少なくとも最小限に制限し、それによる惨禍を最小限にとどめることは、人類共通の希望であり、そのためにわれわれ人類は日夜努力を重ねているのである。

広島・長崎への爆撃は当時の国際法と照らして違法との見解から、被爆者5人が日本政府に賠償を求めた原爆裁判。日本初の女性判事となる三淵嘉子は、右陪席裁判官として第1回口頭弁論から結審までの全てに関わり、その期間は8年に及ぶ。最終判決は原告の敗訴。判決文には損害を被った国民を慮る苦悩がにじむ。本判決後、国会・内閣が動き出す。

困難な問題に「石をも穿つ雨垂れ」となる覚悟で立ち向かう人々が重なり、現代社会が築かれた。置かれた環境で咲く術を嘉子に学び、未来は子供に託したい。

\*発達障害のある子のためのアンガーマネジメント 本田 恵子 明治図書出版 ¥2,000

\*不適切な関わりを予防する教室「安全基地」化計画 川上康則 他 東洋館出版社 ¥2,100

\*戦争はいかに終結したか 千々和泰明 中央公論新社 ¥920  
常磐東小学校 河合由起子